

## 個人嗜好を考慮した訪問エリア選択支援システム —越後妻有大地の芸術祭を題材として—

鈴木 綾子, 伊藤 史子

首都大学東京 都市環境科学研究科 都市システム科学域

連絡先: <suzuki-ayako2@ed.tmu.ac.jp>

(1) **動機:** 本研究の対象地域は、越後妻有大地の芸術祭が行われる新潟県十日町市・津南町である。対象地域内には芸術祭開催時 300 点を超える現代アートが設置されるが、設置場所の点在や交通アクセスの難しさなどから初めて訪れる者や現代アートに詳しくない者にとっては訪問先を選ぶことが難しい。また、ある地域内を観光する際に何処を訪れることが個人の嗜好に適切しているかを示した研究は少ない。本研究では、個人嗜好を考慮して各個人の訪問に適したエリアを示すことで訪問者それぞれのエリア選択を支援することを目的としている。広大な観光地域内のどこが個人にとって適したエリアなのかを示すことにより、スポット的な情報だけではなく訪問エリア選択支援を行うことが出来ると考えられる。

(2) **アプローチ:** 地域に合わせた観光目的を訪問者の感想などから構成し、観光嗜好をく訪問地の選定-観光動機-観光目的>からなる階層構造とした。その階層構造を用いてAHP(階層分析法)により個人嗜好の配分を抽出した。観光目的項目ごとに各観光資源を評価したデータを集め、訪問者の評価の平均をとったデータを観光資源の評価とした。観光目的項目ごとの個人嗜好の配分と観光資源の評価をかけあわせたものを集計し、ある観光資源の各個人にとっての総合評価値とした。それを元にArcGIS9.3を用いて、カーネル密度推定法により視覚化した。2009年の芸術祭開催時、現地において実験を行った。実験参加者の回答よりその人の嗜好に合わせた総合評価値を算出し、カーネル法を

用いて“あなたにおススメの地域マップ(図1)”を作成した。実験参加者にその場で上記マップとおススメ訪問先情報等を手渡し、システムに対する評価をハガキで行ってもらった。また参加者が実際に訪れた訪問先についての評価などをWeb上のアンケートから行ってもらい、観光資源評価の収集を行った。参加者による観光資源評価により、実験期間内にも観光資源の評価が変化していくシステムとした。

### (3) 特徴:

- ・個人嗜好に合わせた訪問先選択支援を行う。
- ・個人の訪問先での体験をもとに観光資源の評価が行われるため、その結果が蓄積され変化していく。
- ・訪問おススメエリアを視覚化することにより、訪問者の能動的な観光を支援することが期待できる。

(4) **使用したデータ:** 本研究は東京大学空間情報科学研究センターの研究用空間データ利用を伴う共同研究(研究番号 225)による成果であり、以下のデータを使用した。

- ・北海道地図 GISMAP for Road



写真1: 2009年実験風景

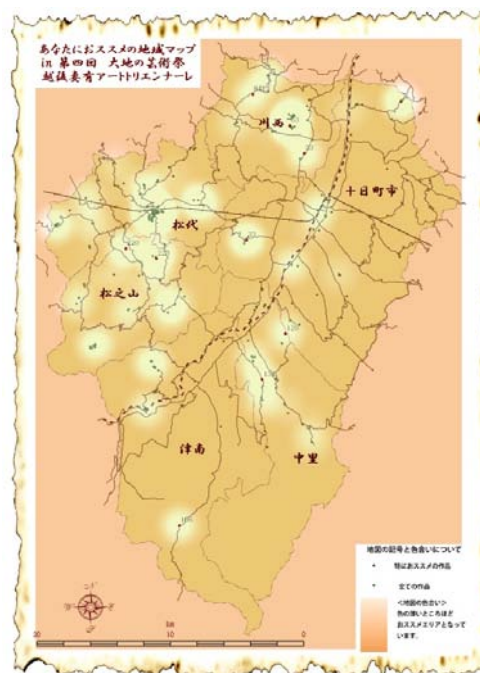


図1: あなたにおススメの地域マップ(2009年)